



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.80

Mar.10, 2026

藤

藤女子大学
広報



学園創立100周年記念式典に
駐日ローマ教皇庁大使をお迎えしました(左)

CONTENTS

- 【特集】学園創立100周年／2
- 藤づる～繋がり～／10
- My Life -卒業生たちのいま-／11
- 授業・ゼミ紹介／12
- 教えて!先生／15
- 2027年4月 キャンパス統合／16

2025年、藤天使学園は創立100周年を迎えました。時代とともに歩みを重ねてきた学園の100年。その節目に、永田淑子理事長は何を思い、どんな未来を描いているのか——お話を伺いました。

Q1. 学園創立100周年を迎えた率直な気持ちを教えてください。

昨年、藤天使学園は創立100周年をお祝いし、いよいよ第2世紀目を歩み始めますが、100年という歴史を振り返るとその重みをずっしりと感じます。札幌藤高等女学校が開校したのが、1925年。ドイツ人宣教師キノルド師の要請により、ドイツから1920年に派遣された3人の修道女と、翌年派遣の3人が力を合わせ、さらに日本人の協力者たちと共に開校の準備をしました。それから100年もの年月を経て今日に至っていることを思えば、ただ感謝のみです。



ヴェンセスラウス・キノルド師



3名のシスター

創立時の思いがけない初代校長の逝去、3回目の卒業式を迎える直前の校舎火災、そして、戦時下でのキリスト教的教育の弾圧、その他100年間の歩みの中で直面してきた大小様々な試練や労苦。一方、数々の恵みと喜び。どんな時にも先輩シスターたちが失わなかった神への信頼と周りの方々への信頼。何よりも常に見えざる神の愛を、教職員の皆様と共に見えるものとするよう努めてくださったことに心から感謝申し上げます。



学園創立100周年記念式典にて祝辞を述べられる駐日ローマ教皇庁大使

記念式典では、駐日ローマ教皇庁大使 フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教様から心に響くご祝辞をいただくことができました。100周年のモットー「感謝をもって過去を振り返り、熱意をもって現在を生き、希望をもって未来に向かう」ことを忘れずに、これからも歩みたいと思います。

Q2. 100年の歴史を振り返って、変わったことや変わらず大切にしてきたことは何ですか？

変わったことといえば、高等女学校の教育から始まった学校が、間もなく幼児教育を始め、戦後すぐに高等教育を始めて時代の要請に応え続け、日本の社会の発展と同じ道を歩んできました。戦後の生徒急増期には、旭川や北見にも学校を開校し、女子教育を行ってきました。しかし、時代とともに女子だけの教育では維持できなくなり、北海道カトリック学園に移管しました。また、月形の学校は小規模な養護学校として全国に先駆けて設けられましたが、生徒減少のため閉校して老人ホームに姿を変えました。さらに、女子の高等教育へのニーズに応え、専門学校、短期大学、さらに4年制大学へと発展してきました。

100年の歴史の中で変わらず大切にされてきたことは、神の愛を伝えるという一つのことです。園児・



戦前の寄宿舎で子供たちに神様のお話

2025年
学校法人藤天使学園は
創立100周年を
迎えました

生徒・学生たち一人ひとりが、神様の大切な子供であることを知り、人を愛する人間になってほしいと願い、祈りつつ教育に携わっていることです。

Q3.長年「藤」に携わってきた中で、特に印象に残っている出来事がありますか？

1985年に私が学長に就任した時、中心校地不足の解消と財務状況の改善が課題でした。女子の4年制大学志向に応え短大を大学に改組し、全体の入学定員を減らして総定員を増やすことを目指し、前任の山下学長が購入された広大な花川校地に、新しい学部を作ることにしました。牧野初代学長の夢でもあった家政系の学部を作ることにし、北海道初の管理栄養士養成課程を設け、また家庭科教員養成を考え、短大の家政科を4年制に改組し、1992年に開設。34年間に多くの優秀な人材を送り出しましたが、2027年にこの花川キャンパスの教育活動に終止符を打つことになりました。美しく広大なキャンパスに別れを告げるのは寂しくもあります。



多くの学生の学びを見守ってきた 花川キャンパス

Q4.これからの学園に向けた思いや今後の展望を教えてください。

少子化の進行は早く、今の日本は非常に厳しい状況にあります。これからの日本には外国からの人々が強く求められます。この方たちが日本という社会の中に定住するために必要な支援、言語の習得をはじめ文化的な理解、相互の交流ができるような社会づくりが必要です。そのために、カトリックの学園である本学が寄与できることがあるのではないかと思います。相互に与え、与えられつつ成長していける社会の実現に向けて力を尽くしたいと考えます。

国内におけるこのような国際化と地球規模での国際化のために、学生たちの意識と能力を広げるのに貢献することが、本学の近未来の存在意義ではないかと感じます。平和の架け橋となれますように。

Q5.読者の方へメッセージをお願いします。

本学で学んでいる皆さん、送り出してくださっている保護者の皆様、いつもありがとうございます。学園創立100年を経て、2世紀目を歩き始めた私たちです。皆様の今後の変わらぬご支援をよろしく願いいたします。



学園の歩みを長年見守ってきた永田理事長

学校法人藤天使学園創立100周年記念式典が執り行われました

2025年9月27日(土)、本学園創立100周年を記念する式典が執り行われました。当日は、駐日ローマ教皇庁大使をはじめ、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会関係者、北海道内外の大学の理事長・学長、学校教育関係各官庁の皆様など、多くのご来賓にご臨席いただきました。

式典は、カトリック札幌司教区 教区長 勝谷太治司教様の司式により、荘厳な雰囲気の中で行われ、司会は藤女子短期大学卒業生でフリーアナウンサーの塚なお様がお務めになりました。永田淑子理事長からは、創立100周年を迎えるにあたっての式辞が述べられ、これまで学園を支えてくださった方々への感謝と、次の100年に向けた決意が語られました。

続いて、駐日ローマ教皇庁大使 フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教様、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会総長 マリア・コルディス・ライカー様(代読：副総長 マリア・マキシミア・ウム様)よりご祝辞を賜り、北海道知事 鈴木直道様、札幌市長 秋元克広様からはビデオメッセージが寄せられました。

式典終盤には、藤女子中学校・高等学校オーケストラ部の伴奏による「ハレルヤ」の合唱が披露され、会場は温かな雰囲気に包まれました。式典後の記念演奏会も含め、学園の歩みと未来への希望を感じる一日となりました。



藤女子大学フラワーアートプロジェクトを実施しました

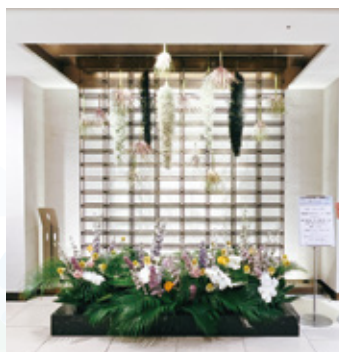
藤女子大学の学生が、フラワーデザイナー・YANASEさんの指導のもと、シンガーソングライター・中島みゆきさんの楽曲から着想を得たフラワーアート作品3点の制作に参加しました。本プロジェクトは、藤天使学園創立100周年を記念し、札幌丸井三越様と藤女子大学による共同企画として実施されました。制作された作品は、「中島みゆき展 札幌展」(開催期間：2025年6月12日～7月1日)の一環として、丸井今井札幌本店および札幌三越本館の店内に展示され、多くの来場者の皆様にご覧いただきました。第一線で活躍するフラワーデザイナーの発想や技術に触れながら、作品が形になっていく過程を間近で体験することは、学生にとって表現力や創造性を育む貴重な学びの場となりました。



丸井今井札幌本店大通館に展示された作品「時代」



丸井今井札幌本店大通館に展示された作品「糸」



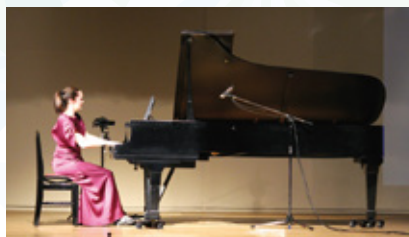
札幌三越本館に展示された作品「地上の星」

アーティスト・フラワーデザイナー YANASEさんについての詳細はこちら



サンナ・ヴァールニ氏によるピアノコンサートが開催されました

2025年6月10日(火)、藤天使学園講堂にて、学園関係者を対象としたサンナ・ヴァールニ氏によるピアノコンサートが開催されました。ヴァールニ氏はフィンランド出身のピアニストで、国際的に高い評価を受け、ソリストとしての演奏活動に加え、さまざまな室内楽アンサンブルとも共演するなど、幅広く活躍されています。当日は、世界で活躍する音楽家の演奏に直接触れる貴重な機会となり、迫力と繊細さを併せ持つ演奏に、会場からは大きな拍手が送られました。また、2名の学生が司会を務め、演奏家の紹介や進行を担当することで、コンサート運営に主体的に関わりました。学生にとっては、国際的な芸術文化に触れながら、表現力やコミュニケーション力を実践的に学ぶ機会となりました。



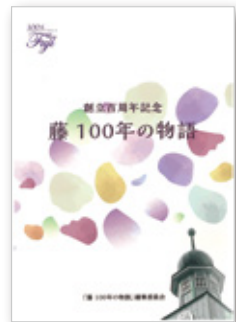
武満徹、レオシュ・ヤナーチェク、ジャン・シベリウスの曲が演奏されました



創立100周年記念小冊子「藤 100年の物語」発刊

藤学園の卒業生および関係者の皆様から寄せられた心温まる原稿をもとに、2025年9月27日(土)に創立100周年記念小冊子『藤 100年の物語』が発刊されました。藤の園にまつわるエピソード満載の一冊です。直木賞作家・藤堂志津子さん、シンガーソングライター中島みゆきさん、大黒摩季さんのご寄稿に、コバルト文庫の名手・氷室冴子さん、シティポップクイーン・大橋純子さん追悼も。ほか多くの、そして意外な卒業生の抱腹絶倒、天真爛漫な言葉、ことば、コトバ。ご執筆・ご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

本記事では、『藤 100年の物語』の制作を中心となって進められた藤の実会会長の鵜飼様に、制作の経緯と本冊子に込めた思いをお寄せいただきました。



わたしの藤100年の発刊物語

2024年夏。永田理事長から「藤100年」について、藤の心を浮き彫りにする記念誌を卒業生中心に100周年式典までに編んでほしいと一報を受けた。準備期間は335日。編集未経験者にはハードルは高い。冊子編纂をともに引き受けてくれた大学時代からの友人や同窓会役員の支えが編纂の大車輪となってゴトりと動く。

もう一つの大車輪は切実なお願いと認めた^{した}便りに「お受けしましょう」と中島みゆきさん、「短大時代の伝えたい思いがあるから」と直木賞作家の藤堂志津子さん、「藤学園への愛がほとばしる」大黒摩季さんをはじめとする各界の卒業生のご寄稿。投稿されたすべての同窓生の言葉が織りなす希望と不安は瑞々しいナイーブな感性があふれこぼれ落ちていた。藤100年の大役を果たして下さった。迷走していた装画は8月に決定した。最終出稿は328日目だった。不眠から眠れる夜を迎えられた。



2025年度藤の実会総会にて

大学時代の私はゼミとJAZZ喫茶のループの青春で、そんな私に巡ってきた冊子編集の大役は同時代を過ごした級友、無知と未熟さゆえに傷つけた友への私からの詫び状かもしれない。

101年目の春には新鮮な抱えきれない躍動に満ちた若い瞳が藤棚の下に集う。ぽっかりできた待ち時間に「藤100年の物語」を読まれたら、そこにはきっと貴女に似ている誰かがいる。きっと勇気が出るはず。



文学部国文学科 1978年卒業
藤女子大学同窓会
「藤の実会」会長
うがい あから
鵜飼 紅良

本冊子は非売品であり、学園創立100周年記念事業特別寄付に対する返礼品として用意されています。

ご興味をお持ちの方は、ぜひ寄付についてもご検討ください。「学校法人藤天使学園創立100周年記念事業特別寄付金」について▶



藤女子大学への寄付金



これまで皆様からお寄せいただいた寄付金のうち、資産取得引当特定資産の積立金62,048,488円、減価償却引当特定資産の積立金7,781,974円を取崩し、花川キャンパスのエアコン設備を新規整備いたしました。

近年、全国的に猛暑が常態化する中、本学においても学生の学修環境の安全性と快適性の確保が、重要な課題となっております。この度のエアコン設備の整備により、厳しい暑さの中においても、学生が安心して学びに専念できる環境を整えることができました。

また、2024年度にお寄せいただいた寄付金のうち、3,000,000円をキノルド奨学金引当特定資産の積立金へ、残りの5,881,667円を資産取得引当特定資産の積立金へ充当することいたしました。施設設備の拡充等のため積立金を使用する際には、改めてご報告いたします。

大学への寄付者ご芳名 期間 2024年10月1日～2025年12月31日 (敬称略・お申込順)

〈保護者〉	〈卒業生〉		〈旧教職員・旧役員〉	〈教職員・役員〉	〈その他、法人等〉
船田 由江	辻 桂子	松田 文子	匿名 113名	山崎 玲子	藤の実会釧路支部
伊藤 二郎	大野 芳枝	正田 紀子	計 139名	知地 英征	安岡 研也
工藤 貴光	阿部 洋子	橋爪 弘子		長谷部 清	稚内モーター(株)代表取締役 川崎 克哉
齊藤 博満	清水 悦子	大山菜穂子		布施 英憲	(株)札苜造園土木 代表取締役 平野 優
萩原 誠也	松岡 敏子	鵜飼 紅良	匿名 5名	匿名 5名	藤の実会
半田由紀恵	松原智津子	江口 道子	計 9名	計 4名	木村 和仁
匿名 12名	大久保和子	渡邊亜希美			木村 早希
計 18名	玉田 一美	星野 敏子			二幸産業株式会社 北海道支社長 尾崎 圭律
	長南 幸子	舟本 一枝			匿名 7名
	知里佐和子	菊地美智子			
	堀内 典子	阿知波真知子			
	稲澤壽美子	田中由起子			
	鈴木 雅子	笹川 祐子			
					計 15名

計185件 18,530,717円

「藤女子大学寄付金」と「学校法人藤天使学園創立100周年記念事業特別寄付金」は別のもので、返礼品も異なります。ご寄付にご関心をお持ちの方はQRコードより詳細をご確認ください。

大学へのご支援について



Campus News

イベント

2025年9月13日 / 11月16日

まちかどCONNECTを開催しました



第7回目



詳しくはこちらをご覧ください



第8回目

2025年10月11日

初めてのホームcomingデーを開催しました



詳しくはこちらをご覧ください



大学生活1年目を振り返って

入学から約1年。期待と不安が入り混じるなかで始まった大学生活は、どんな日々だったのでしょうか。本記事では、大学1年生の皆さんに、この1年を振り返り、感じたことや成長したことをお聞きしました。

文学部

日本語・日本文学科1年

M.S.さん



Q: 大学生になって過ごした一年の率直な感想を教えてください

昨年の4月に入学してからもう一年が経ったのだと思うと、あまりの早さに実感が湧きません。初めて実家を離れて学生会館で暮らし、慣れない札幌での生活と慣れない90分の授業。戸惑うこともありながら、新たな場所でのアルバイトやボランティア活動に、サークル活動と、多くの経験をした一年だったと思います。また、たくさんの人と関わる中で、自分の人生を見つめ直すきっかけにもなりました。率直に、楽しく充実した一年でした。

Q: 入学前と入学後のギャップやご自身の変化について

高校時代の私は、緊張しやすく失敗を恐れていました。大学に入学後、早速司会を務める機会をいただいた際、高校時代の経験から自信を持つことができ、失敗を過度に恐れなくなりました。なぜなら、大学に入ってから私を認めてくれる人が多くいることに気づいたからです。今では、認めてくれている方々の期待に応えられるよう、努力を続けていきたいと思っています。



ウェルビーイング学部

食環境マネジメント学科1年

T.A.さん



Q: 大学生になって過ごした一年の率直な感想を教えてください

私が大学生として過ごしたこの一年は、これまでの遠回りを経て、ようやく落ち着いて学びに向き合えた時間でした。進路について改めて考え直し、この大学に入学したからこそ、学べる環境の有り難さや、人との関わりの温かさを強く実感しています。これからも、この大学での日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

Q: 印象に残っている出来事がありますか?

カトリックセンターの木村シスターにお声がけいただき、クリスマスのミサにて「アヴェ・マリア」を披露する機会をいただいたことです。また、調理実習では仲間と協力しながら楽しく取り組む中で、多くの学びがあることを実感しました。どちらも大学生活を象徴する貴重な経験であると感じています。



ウェルビーイング学部

子ども教育学科1年

K.H.さん



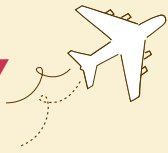
Q: 大学生になって過ごした一年の率直な感想を教えてください

入学前は友達ができるか不安でしたが、学科の仲間と授業でたくさん話したり、一緒に昼食を食べたりと、友達に恵まれた1年でした。また、一人暮らしをしながら学業に動かしむ傍ら、アルバイトやサークル活動、趣味である旅行などの学外活動にもたくさん挑戦でき、高校生活とは一味違う充実した日々を送ることができました。

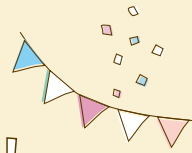
Q: これから挑戦してみたいことは何ですか?

2年生以降は、資格取得や実習に向けてより専門性の高い科目を履修することになります。知識のインプットだけでなく、実技科目やディスカッションを通して、自分の経験や知識をアウトプットすることにも力を入れたいです。また、保育・教育の現場をより深く知るために、様々なボランティア活動にも積極的に参加したいです。





藤女子大学の国際交流



パシフィック・ミュージック・フェスティバルのボランティア活動

2024年度より、藤女子大学の学生がパシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌 (PMF) にボランティアとして参加しています。学生たちは、PMFボランティア団体「ハーモニー」による活動に加わり、アカデミー生と呼ばれる受講生を対象とした日本の伝統文化体験のサポートや休憩スペースでの交流のほか、運営協力としてコンサート会場での受付業務やPMF公式グッズの販売など、多岐にわたる活動を行いました。また、2025年7月には、学校法人藤天使学園と公益財団法人PMF組織委員会との間で、「音楽を通じた国際交流事業に関する連携協定」が調印されました。今後はこの協定を通じて、両者の連携を一層深め、音楽を軸とした国際交流の取り組みをさらに推進していく予定です。



PMFのフィナーレを彩るPMF GALAコンサート

学生の感想

昨年の夏に行われたPMFのピクニックコンサートとGALAコンサートに、ボランティアとして参加しました。私自身も吹奏楽に取り組んでおり、憧れている奏者の一人が出演することを知って参加を決めました。当日は主にグッズ販売を担当しましたが、小さな子どもから外国の方まで、さまざまな人が音楽を楽しむ姿に触れ、とても温かい気持ちになりました。所属する子ども教育学科では国際的な交流に触れる機会は多くありませんが、言葉だけでなく音楽を通して世界とつながる経験ができたことは新鮮で、自分の視野が広がる貴重な学びになりました。コンサートの鑑賞も楽しく、次回もぜひ参加したいです。



ウェルビーイング学部
子ども教育学科1年
A.S.さん

外務省JENESYSプログラムによる若手メディア関係者との交流会

2025年12月5日(金)、対日理解促進交流プログラム「JENESYS (ジェネシス)」により来日したマレーシア、タイ、インドネシアの若手メディア関係者と、本学学生との交流会を学内にて実施しました。交流は主に英語で行われ、活発な意見交換の場となりました。

「JENESYS」は、日本とアジア大洋州地域の将来を担う若者を対象に、日本への招へいや海外派遣を通して交流を促進する外務省の事業です。若者同士の相互理解を深め、日本の政治・経済・社会・文化・歴史・外交政策等に関する理解の促進を目的としています。

交流会は、本学のミア・ティッロネン講師によるレクチャーから始まり、日本における宗教と観光の関わりや、ポップカルチャーが神社のイメージに与える影響などについてお話がありました。参加者はいずれも母国のメディア関連企業に勤務しており、日本社会への関心が高く、レクチャー後には多くの質問が寄せられました。また、その後の学生との意見交換では、参加者から日本社会に関する多様な質問が出されました。本学の学生たちは、国際関係、日本語教育、コミュニケーション学など、それぞれの専門分野での学びを生かしながら、堂々と英語で回答していました。その姿は大変頼もしく、互いに学び合う貴重な機会となりました。

交流会の実施を本学にご提案いただいた、一般財団法人 日本国際協力センター (JICE) の皆様には、心より感謝申し上げます。



学生の感想



文学部
英語文化学科 3年
M.C.さん

マレーシア・インドネシア・タイのメディア関係者の方々との国際交流に参加しました。神社やお守りをテーマにしたプレゼンテーションでは、時間が押すほど多くの質問が寄せられ、日本文化に強い関心を持ってくださっていることが伝わり、嬉しく感じました。その後のグループ交流では、仕事を選んだ理由や働く上でのモチベーションについて直接話を聞き、記者という仕事に対する熱意に大きな刺激を受けました。キャンパスツアーでは、皆さんが明るくフレンドリーに話しかけてくださり、自然と会話が広がっていったことが印象に残っています。今回の交流を通して、自分の視野が広がり、国際交流の楽しさを改めて実感しました。



藤づる～繋がり～

しなやかで長く強い藤づる。
それは藤の学生、卒業生、教職員を繋ぐ絆のよう。

2025年10月30日(木)、志野流香道の先生方をお迎えし、茶道部では北16条キャンパスのお茶室にて香道体験会を開催しました。香りを「聞く」静かな時間の中で、日本文化の美しさや奥深さに触れるとともに、本学の歩みを振り返る貴重な機会となりました。当日は、お作法を丁寧に教えてくださった和田恵先生のもと、在学生在が実際に香りを体験し、卒業生と交流しながら学びを深める時間を過ごしました。本記事では、その体験の様子をご寄稿にて紹介します。



香道と国文学と藤女子大学



文学部 国文学科
1979年卒業
W.M.さん

香道という芸道をご存じでしょうか。話に聞くだけだった香道を札幌でも学べると知り、早速カルチャー教室を受講したのが始まりでした。初めて聞く香木は、盛り上げた灰の雲母の上にちょこんと載り、脈打つように芳香を放ちました。その香りを言葉にできずに戸惑っていると、「今日は仮に久方と名付けました」と先生。古の香りを歌ことばで表すという発想に、たちまち古典の世界へ引き込まれていきました。

お稽古を重ねるうちに、短歌・長歌・旋頭歌の違い、望月や十六夜といった月の名、花の宴や青海波など、物語絵巻のような世界が広がりました。師匠の山崎圭子先生は藤女子専門学校国語科2回生とのこと、豊かな学識に裏付けられたお稽古だったのです。



昨年の藤の実会総会では、同じ社中の英文科卒の先輩に鶉飼会長をご紹介いただき、そのご縁で大学茶道部とのつながりが生まれました。秋深まる10月、茶道部茶室をお借りして「月見香」の体験会を開催。近代的に変わった学舎にも、どこか懐かしい面影がありました。山崎先生にとって、母校の後輩に香道を伝える機会は感慨深いものだったと思います。

私自身も、若いうちに古典に触れることの大切さを強く感じており、卒業生として、後輩のために文化的なお手伝いができれば嬉しいです。かつて私がそのように師匠に導かれたように。

香道体験をさせていただきました



茶道部部长
文学部
日本語・日本文学科 2年
S.C.さん

香道体験会に参加し、香りを「聞く」という香道独自の表現に、日本文化の奥深さを強く感じました。お香ということもあり、香りが強いのかと思っていましたが、そうではなく香木のわずかな違いに集中することで、心が自然と落ち着きました。また、香りから季節や情景を想像する体験はとても新鮮に感じました。一方で、季節や行事によって道具を変えて相手をおもてなしする様子は、茶道と通じるものを感じました。さらに、今回ご指導をくださった先生が本学のOGの方で、大学時代の写真を持ってきてくださいました。そこで初代学長の牧野キク先生と、藤学園創立当初から重要な役割

を果たされたクサヴェラ先生のお写真を見せていただき、お話も聞かせていただきました。

今回の体験を通して、香道と茶道はともに、所作や形式だけのものではなく、心を整え、相手へのおもてなしの心や空間を大切に作る精神を重んじており、その点で共通していると感じました。このようなことを改めて感じ、自分たちもそういう気持ちを忘れずにお稽古に取り組みたいと思いました。今後は茶道部として、技術の向上はもちろん、一つひとつの動作を形式ではなく、その意味を意識しながら、お稽古に励んでいきたいです。また、今後こういった交流を積極的に行い、茶道部としての活動をより豊かにしていきたいです。





マイライフ 卒業生たちのいま

Vol.4



文学部 英語文化学科 2020年卒業
株式会社キャリアタス
S.M.さん

2020年3月に英語文化学科を卒業後、新卒から現在に至るまで2回転職をしました。現在は営業職として学校向けの広告やマーケティング商材の販売、また就活支援や校務支援を行っています。仕事では、お客様との信頼関係を最も重要視しており、関わる方々に対して常に丁寧であることが私の軸です。具体的には、担当している学校の施策を絶対に口外しない等、一つひとつは小さなことですが、顧客を守り抜くという強い気持ちでお客様と向き合っています。そして、学生時代に培った「芯の強さ」という武器を左手、名刺を右手に、社内外を問わず人間関係を大切にしながら日々奮闘しています。

そんな今の自分の在り方には、大学生活の4年間が大きく影響していると感じています。この4年間は本当に楽しくあつという間で、人生の中で最も自由に時間を使い、遊んだ時期でした。その一方で、人間として最も成長できた時期でもあり、周りの友人達



藤の実会&FSA共同企画「藤の実カフェ」での在学生との交流の様子

の影響は非常に大きなものでした。就職活動や勉強など、つい自分を甘やかし、弱気になることもありましたが、夢や目標を持ち努力する友人達がロールモデルになってくれたおかげで、「芯の強さ」と「ブレない価値観」を育むことができました。今、目標を持ち、モチベーションを維持しながら前向きに取り組めるのは、ここが原点です。良い刺激を与えてくれる友人達に出会えたことが、私にとって一番の“大学で得たもの”です。

最後に在学生のみなさまへ。藤女子大学で出会う全ての人脈を大切に、最高の学校生活を送ってください。

新任教職員 2025年4月1日付

教員紹介はこちら



文学部
日本語・日本文学科 講師
押山 美知子

文学部
文化総合学科 教授
埴 浩伸

ウェルビーイング学部
食環境マネジメント学科 教授
深井 原

ウェルビーイング学部
食環境マネジメント学科 助手
南屋 智砂

ウェルビーイング学部
食環境マネジメント学科 助手
齋藤 夏季

ウェルビーイング学部
子ども教育学科 准教授
神林 裕子

ウェルビーイング学部
子ども教育学科 准教授
崔 敏奎

退職教職員

学長

渡邊 頼純
(2025年12月13日付)

文学部
日本語・日本文学科 教授
関谷 博
(2025年3月31日付)

文学部
文化総合学科 教授
野手 修
(2025年3月31日付)

文学部
文化総合学科 教授
中田 貢
(2025年3月31日付)

人間生活学部
人間生活学科 准教授
松田 剛史
(2025年3月31日付)

人間生活学部
食物栄養学科 教授
小山田 正人
(2025年3月31日付)

人間生活学部
食物栄養学科 助手
石岡 滯
(2025年3月31日付)

人間生活学部
食物栄養学科 助手
川原 陽子
(2025年3月31日付)

人間生活学部
子ども教育学科 教授
駒形 武志
(2025年3月31日付)

事務局
総務会計課
種川 真希子
(2024年12月31日付)

事務局
総務会計課
山崎 玲子
(2025年3月31日付)

事務局
情報メディア課
内藤 良幸
(2025年3月31日付)

企画人事局
広報室
佐藤 優芽
(2025年6月30日付)

心よりご冥福をお祈りいたします。

元藤女子大学 文学部
英語文化学科 教授
ジョン・パリー・サンダース 様
2025年1月31日ご逝去

元藤女子大学 人間生活学部
人間生活学科 教授
福地 保馬 様
2025年2月9日ご逝去

元藤女子大学
事務局 総務課長補佐
Sr.M.ヨゼフィーネ伊勢美繪子 様
2025年7月19日ご帰天

元藤女子短期大学・藤女子大学
一般教育 教授
林 新治 様
2025年8月5日ご逝去

元藤女子大学 人間生活学部
人間生活学科 教授
北川 誠二 様
2025年8月6日ご逝去

元藤女子短期大学・藤女子大学
事務局 施設課工作室職員
西谷 茂 様
2025年6月ご逝去

元藤女子大学
一般教育 教授
黒川 昭和 様
2025年10月2日ご逝去

元藤女子短期大学・藤女子大学
一般教育 教授
川勝 正治 様
2025年9月21日ご逝去

大学同窓会「藤の実会」からのお願い

住所や氏名に変更があった卒業生の方は、「藤の実会」までお知らせください。



変更手続きはこちら

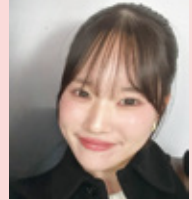


授業・ゼミ紹介!



文学部 英語文化学科 大桃ゼミ (担当教員: 大桃 陶子 先生)

受講生



英語文化学科 3年
K.Y.さん

Q1: 大桃ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

授業内の取り組みとしては、主にイギリス文学作品を読解し、作品理解と時代背景への考察を深める学びを行っています。英語版と日本語版それぞれを読み比べながら、作品への理解を深めます。また、当時のジェンダー観や家父長制、キリスト教的道徳などの時代背景について、議論や発表を通して考察します。年度によって扱う作品が異なるので、幅広い文学作品に触れながら学習を進められるのも魅力です。

Q2: 大桃ゼミの魅力は?

英語の文章を精読できることです。英語のオリジナルテキストを訳読し、さらに物語や著者の意図や時代背景などを読み解くのはかなり難解ですが、確実に英語の読解力を伸ばすことができます。また、文学作品を原文で読む機会は日常的には少ないと思うので、英語と文学の双方に深く向き合える点も本ゼミならではの魅力だと思います。



実際に授業で取り扱われた作品

Q3: 今後の抱負を教えてください。

今後はゼミでの学びを基盤として、卒業論文の作成に向けての準備や研究をしていきたいです。卒業論文では難解な英語テキストを精読することも多くなると考えられるので、これまでに培ってきた読解力や議論の経験を生かしながら計画的に進めたいです。また、文学作品を多角的に分析し、自身の問題意識を深めながら研究を進めることを目標として取り組んでいきたいです。

文学部 日本語・日本文学科 押山ゼミ (担当教員: 押山 美知子 先生)

受講生



日本語・日本文学科 3年
S.A.さん

Q1: 押山ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

主に漫画作品の分析を行っています。具体的には、特定の漫画作品をストーリー、登場人物の容姿、セリフ、構図、コマ割りといった複数の視点から読み解き、発表を行っています。また、漫画だけでなく、2.5次元舞台やアニメ作品を題材に研究を行った先輩もいます。馴染みのある作品でも、分析方法を学ぶことで新たな発見を得ることができます。

Q2: 押山ゼミの魅力は?

自分のやりたい研究を安心して追究できる点が魅力です。卒業研究のテーマの自由度が高く、少女漫画・少年漫画・青年漫画・アニメなど、扱う作品のジャンルが幅広いです。また、押山先生はどのような研究テーマであっても否定することなく「学生がやりたいこと」を尊重し、相談にも親身に対応して下さるため、安心して研究に取り組むことができます。



Q3: 今後の抱負を教えてください。

卒業研究に向け、学びを深めていきたいと考えています。私は卒業研究で、漫画作品における登場人物の身体に注目した研究を行う予定です。そのため、一つの作品に限らず、幅広い漫画作品を通して、登場人物の身体がどのように描かれてきたのかを学び、自身の研究に活かすことを目標としています。今後は、好きなことを追究できる環境に感謝し、研究に全力で取り組んでいきたいです。

文学部 文化総合学科 石井ゼミ (担当教員：石井 佑可子 先生)

受講生



文化総合学科 3年
K.H.さん

Q1：石井ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか？

このゼミでは、心理学に関する日本語・英語の様々な論文を読み、レジュメにまとめて発表しています。また、関心のあるテーマについて、アンケートやインタビュー調査にも取り組み、結果の分析から仮説がどのように確かめられるのかを学びます。文学部でありながらデータ分析やグラフ作成も学べ、講義科目の授業の中で興味を持ったテーマを深く探究できるのでとても面白いです。

Q2：石井ゼミの魅力は？

学年にかかわらず、関心のあるテーマの近い人同士でグループを組み、発表や調査に取り組める点が魅力です。一人で考えるだけでは気づけない視点に出会えるため、学びがより深まり、話し合いの過程も楽しく感じられます。また、自分の興味や関心を大切にしながらテーマを自由に設定することができるので、心理学の視点があれば幅広いテーマを扱うことができます。



Q3：今後の抱負を教えてください。

今後は卒業研究に向けて、これまでのゼミでの学びを生かしながら研究を進めていきたいと考えています。特に、AIに関わるテーマに心理学の視点から取り組み、調査や分析を通して理解を深めたいです。そのために、様々な本や論文を読んだり、人の話を聞いたりしながら、知識や考え方の幅を広げ、根拠をもって論じる力を高めていきたいです。

人間生活学部 人間生活学科 和田ゼミ (担当教員：和田 雅子 先生)

受講生



人間生活学科 3年
H.Y.さん

Q1：和田ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか？

「広報コミュニケーションゼミ」として広報や広告、コミュニケーションやマーケティングについてなど、教材を基にゼミ生同士で理解を深め合う座学と、実践的な取り組みとして外部の企業や組織と連携・協働する複数のプロジェクトを並行して行っています。活動はそれなりに忙しいですが、どの活動も非常に充実した時間を過ごすことができます。

Q2：和田ゼミの魅力は？

「実践」でしか味わうことのできない、外部の方々と協働することへのやりがいや難しさを実感できることです。ゼミ用の名刺を作成するなど、活動内容も本格的で、社会で協働するとはどのようなことなのかを身をもって経験できます。私も、ゼミ活動を通して数多くの学びと経験を得たことで、自身の能力に自信が持てるようになりました。また、プロジェクト活動で取り組んできた内容は「ガクチカ」(※)につながり、就職活動にも非常に役立っています。

※ガクチカ=学生時代力を入れたこと



Q3：今後の抱負を教えてください。

3年生の最後のゼミでは、先輩方の卒業論文(卒論)の発表を聞き、自分がどんなテーマで卒論を書きたいのか、イメージを膨らませることができました。残りの1年は自分との戦いになるため、卒論の完成に向けて力を入れて取り組みたいです。また、就職活動についても気を緩めずに頑張ります。そして、和田ゼミ恒例のふわふわスフレパンケーキを、みんなで美味しく作れるようにしたいです。



授業・ゼミ紹介!



人間生活学部 食物栄養学科 田中ゼミ (担当教員: 田中 洋子 先生)

受講生



食物栄養学科 3年
T.N.さん

Q1: 田中ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

臨床分野における栄養について、論文や研究を通して学んでいます。論文では、自分の興味のある疾患や病期での栄養に関する論文を探し、ゼミ内で共有・議論することで、臨床栄養について幅広く学んでいます。また、研究ではさつまいもパウダーを使用した高齢者向けデザートを作成を行うなど、実際の臨床現場と関わりながら臨床分野での栄養について多角的に学んでいます。

Q2: 田中ゼミの魅力は?

臨床現場で求められる実践力を身につけられる点が魅力です。卒業研究では病院にご協力いただき、実際に患者さんに食事を提供し、反応や評価を踏まえて検討を重ね、どのような食事が適しているのか実践的に研究し学ぶことができます。特に嚥下調整食では、飲み込みやすさやかたさについて、実際に患者さんの声を聞くことで授業だけでは得られない理解を深めることができます。



Q3: 今後の抱負を教えてください。

ゼミでの活動を通して、臨床栄養への理解をより深めていきたいと思っています。特に卒業研究では実際の現場に関わらせていただき、患者さんの反応から学ぶことで、教科書で学んだ知識と実践的な知識を繋げ、学びを深めていきたいです。また、こうした学びを将来に生かすためにも、管理栄養士国家試験合格を目指して勉強を頑張りたいです。

人間生活学部 子ども教育学科 中野ゼミ (担当教員: 中野 泰伺 先生)

受講生



子ども教育学科 3年
O.A.さん

Q1: 中野ゼミではどのような学びや取り組みを行っていますか?

受講しているゼミでは、インクルーシブ教育を軸に、障害の有無にかかわらず多様な人が暮らしやすい社会の在り方について学んでいます。論文の講読だけでなく、教育現場で用いられている教材を実際に体験する学習や、特別支援学校をはじめとする施設の見学を通して理解を深めています。また、大学祭での模擬店や誕生日会など、交流を大切に活動にも取り組んでいます。

Q2: 中野ゼミの魅力は?

受講しているゼミの魅力は、大学内での学習にとどまらず、実際に施設や現場を訪れて学ぶことができる点です。現場の雰囲気を感じながら学ぶことで、理解がより深まります。また、ゼミは学生主体で運営されており、自分たちの意見や関心を学びに反映できる環境です。先生との距離も近く、将来につながる学びを安心して深められる温かな雰囲気の中で活動できることも大きな魅力です。



Q3: 今後の抱負を教えてください。

4年生のゼミでは、卒業研究に主体的に取り組むたいと考えています。インクルーシブ教育に関連する分野の中から、自分の関心や問題意識を大切にしながら研究を進めていきたいです。毎週のゼミ活動を通して、さまざまな考え方や支援の在り方に触れ、理解を深めるとともに、特別支援学校での教育実習における研究授業の準備にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

★教えて! 先生 第3回

本学の教員やその研究内容を紹介する企画「教えて!先生」。第3回である今回は、高嶋先生に研究分野や本学での講義についてお話を伺いました。

「教育学」「教育行政学」とは?

授業で自己紹介をするときには、それぞれ1行で、教育行政学は教育の保障のあり方を探究する学問、教育学は教育の実践のあり方を探究する学問、と紹介しています。現在の日本は様々な社会課題や教育課題を抱えており、その影響を受けて公教育のあり方も変化しています。既存の学校の姿にとらわれず、新たな公教育システムと教育実践を探究できる点に魅力を感じています。

本学で教えていること

「教育」という言葉から何をイメージするでしょうか?多くの人は学校を思い浮かべると思いますが、僕はこれまでの自分の経験を踏まえて学習塾に着目しながら研究を進めてきました。なぜ教育諸学では学習塾が批判の対象とされてきたのか、それにもかかわらず、なぜ今日では学校や地方自治体と学習塾の連携が進んでいるのか、民間教育企業ではなく地方自治体が設置した学習塾(=公設塾)ではどのような教育活動が行われているのかなど、私たちがイメージする「学習塾」とは異なりつつもつながりのある様々な事象を解き明かすべく、自分自身も公設塾の運営に携わりながら研究と実践に励んでいます。

藤女子大学では教職課程を担当しており、教員免許状を取得するために必要な授業や教育実習の事前事後指導などを行っています。確かに学習塾とはあまり関係がないかもしれませんが、学校外でなかなか実現できないことこそ、公教育の中核に位置する学校と、そこでの教育活動を専門的に担う教師が実現していく必要があると考えています。こうした学校関係者とは異なる学校外の立場から、教員を目指す学生たちに対して学校教育だからこそ実現して欲しい期待を伝えると共に、さらなる変化が予想される次なる公教育システムと教育実践のあり方を学生たちと探究していきたいです。



新入生オリエンテーションでのワークショップ



教職課程担当
ウェルビーイング学部 地域創生学科
准教授 高嶋 真之

自己紹介

旭川市で生まれ、大学生のときに札幌市に引っ越してきたので、ずっと道民です。学生・院生時代は、先輩や先生方との読書会や研究会、教育・福祉関係のボランティア、塾講師のアルバイトなど、興味があれば何でも顔を出すタイプでした。



執筆に携わった書籍



教職課程で企画した
藤女子大学×カフェ部 (Youth+)



教員紹介
はこちら▶

「そらちしんきんU29パッケージデザインコンテスト2025」で入賞

人間生活学部人間生活学科4年生のT.Y.さんが、空知信用金庫主催の「U29パッケージデザインコンテスト」にて特別賞を受賞しました。授業で学んだ起業やパッケージデザインの知識を実践に活かし、コンテストに応募。既存商品の調査やHPでの商品イメージを参考に、「シンプルさ」に「洗練」を加え、岩見沢らしさも取り入れたデザインに挑戦しました。制作過程ではPOP作成などの難しい作業にも過去の学びを活かし、自己成長を実感。デザインした「メープル米」は地域企業で採用され、今後ふるさと納税の返礼品にも使用される予定です。

詳しくはこちら▶



「ソーシャル × 散走」 企画コンテスト ファイナルに進出しました

人間生活学部人間生活学科でプロジェクトマネジメントを学ぶ3年生5名が、株式会社シマノ主催の「ソーシャル×散走」企画コンテストに挑戦しました。本コンテストは、散走※を通して社会課題に取り組む企画を学生から募り、発表・共有するもので、今年度は第8回目の開催となります。

今年度は全国から24チーム115名が応募し、その中からファイナルに進出できるのは、わずか6チームです。本学では本コンテストに毎年応募してきましたが、今回、本学の学生チームが初めてファイナル進出の切符を手に入れました。

石狩川をテーマにした企画「石狩文明 in 2025」は、地域の魅力や歴史、未来の可能性を「散走」という視点で捉え直した点が高く評価され、見事ファイナル6チームに選出されました。

本企画の立案・実施にあたっては、毎年、石狩市役所ならびに一般社団法人シーニックバイウエイ支援センターの皆様から多大なご支援とご協力をいただいています。ここに心より感謝申し上げます。

最終審査会は、2025年12月13日(土)に大阪府堺市のシマノ自転車博物館で開催され、本学の学生チームも全国の舞台で堂々と最終プレゼンテーションを披露しました。



※「散走」とは、株式会社シマノが提案する自転車の楽しみ方で、散歩のようにゆったりと自転車で乗り、地域との出会いや魅力を味わうことを指します。「環境・交流・健康」をテーマに、散走を通して社会課題の解決を目指す学生向け企画コンテストが毎年開催されています。

学生からのコメント

今回のテーマは石狩川。北海道一長い川で縄文時代から続く長い歴史、北海道一広い流域面積。自転車で巡る私たちのアイデアが上位に選ばれ、貢献できた実感が湧きました。

(人間生活学部 人間生活学科 3年 T.M.さん)

企画を通して石狩の歴史や魅力、地域の未来を考える視点を得ました。仲間と挑んだこの経験と、新たに気付いた地域への眼差しを今後の活動に生かしたいです。

(人間生活学部 人間生活学科 3年 N.A.さん)

2027年度より学びの場を北16条キャンパスに集約します

ウェルビーイング学部、人間生活学部及びウェルビーイング学研究科は、2027年4月1日より、北16条キャンパスへ移転いたします。これにより、藤女子大学のすべての学生の学びを札幌市に集約します。

2025年度よりウェルビーイング学部では先行して、2026年度には文学部もキャリア形成・学修の基盤となる全学共通のカリキュラム「基盤教育科目」を設置し、数理データサイエンスAI教育、プロジェクト学習の取り組みなどカリキュラムを充実させることになりました。本学では他学科の専門科目も履修できるシステムとなっており、同じキャンパスで両学部の学生が交流することで教育の相乗効果が上がることが期待されます。

キャンパス統合を機に、教育環境のさらなる充実と学びの質の向上に努めてまいります。今後とも本学の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

札幌駅から
近い立地

JRタワー

北16条キャンパス

発行 藤女子大学 編集 広報「藤」編集委員会

北16条キャンパス 〒001-0016 札幌市北区北16条西2丁目 TEL (011) 736-0311 FAX (011) 709-8541
花川キャンパス 〒061-3204 石狩市花川南4条5丁目 TEL (0133) 74-3111 FAX (0133) 74-8344

ホームページ
<https://www.fujijoshi.ac.jp>

